

人を喜ばせるということ

兵庫県

福永

道子



鍵山秀三郎先生から、「掃除は心の荒みをなくすため」と聞いて、私の心のコップはバカッと上に向きました。そして1993年11月の岐阜県大正村での、第一回掃除に学ぶ会に足が向きました。尊敬する寺田清一先生と鍵山先生にご指導いただけるチャンスでした。

参加者35名、トイレ掃除は、便器や床、壁などを磨き、最後にタオルで水気をふき取り、道具を戻して終わると、トイレも私の心もピッカピカ、秋空のようにさわやかでした。(写真)

私は体験発表で突然指名され、舞台上に立ちました。多くの人が見つめています。感動で胸がいっぱいだった私は、涙が止まりません。あゆみ保育園で、先生方とトイレを磨かせていただいていることや、鍵山先生からのお便りなどを、泣きながらお話ししました。

翌1994年1月、鍵山先生はあゆみ保育園でご講演くださり、その数日後先生から「組み立て式木製滑り台」が送られてきました。これはすぐに、あゆみの宝物となりました。

数か月後再びおいでになった鍵山先生は、滑り台で遊ぶ子どもたち一人ひとりに、「えらいね」「上手だね」と声をかけ握手してくださいました。あゆみに必要なものを考えて贈ってください、子どもたちの喜ぶ姿もしっかりと見届けてくださったのでした。

またあゆみの3人の先生方には、「若い先生方がトイレ磨きをされる姿は、どんな高価な衣服を身に着けたよりも魅力的です」とお便りをくださり、私は感動のあまり涙しました。先生方は、今も保育士として感動の種まきを続けてくださっています。

「ひとを喜ばせる」とは、相手の立場に立つことだと肝に銘じたことでした。

掃除のおかげで やめて良かったこと

兵庫県 佐藤 弘一さとう こういち

1992年1月8日の朝、友人の樋口順三さんから、「人間行脚の会」があるので、聴きに来ませんかと誘われました。何か参考になる話があればと思って参加しました。

その会の講演者は鍵山秀三郎社長様で、「攀念智」という言葉を聞きました。その後の交流会で名刺交換させていただき、その際「お掃除なさったら良いですよ」とさりげなく言われました。でもその言葉は、当時の私にとっては右から左にスルーで、「掃除なんて」と思って、実践すること

はありませんでした。

その後樋口さんから、鍵山社長様の講演録「凡事徹底」（寺田一清筆録編集）を頂戴して拝読し、大きな衝撃を受けました。まさに「目から鱗が落ちる」思いでした。

あの鍵山秀三郎様はこのようなご苦労をされて、そしてこの様な思いで掃除に取り組んでおられていたのだと、心震えました。

そして私は、1994年1月4日から会社のトイレ掃除に取り組み始めました。

掃除を始めて約1年後、鍵山社長様と再会する機会に恵まれました。「トイレ掃除を実践しております」と申し上げると、にっこり笑顔で「それはよろしゅうございまして」と言っていたいただき、

嬉しい気持ちでいっぱいでした。

そして談笑が続くなか、私はつい調子に乗って、「自分はゴルフが大好きで…」と話し始めると、それまで佛様のような笑顔を消え、「私はゴルフをしません」と厳しい眼で言われ、私は凍りつきました。

そして1995年1月、ゴルフをきっぱり止めました。

その後、「西宮掃除に学ぶ会」、「三宮掃除に学ぶ会」、「淀川掃除に学ぶ会」を立ち上げ、今日にいたっております。

鍵山秀三郎社長にお逢いし、掃除に出会い、そのお蔭でゴルフを止めたことが、私の人生最大の良かったことでもあります。

(602-0014 兵庫県西宮市甲陽園日之出町2-51)

鹽(たらい)に一滴の水

神奈川県

亀井かめい

民治たみはる



約26年間経営してきた会社を、倒産止むなきに至らしめたのは2002年5月のことです。倒産

したその日の午前10時、私はイエローハットの本社を訪問しました。鍵山秀三郎社長(以下鍵山相談役)に報告するためです。

話を聞き終えた鍵山相談役は私に、耳を疑うような提案をされました。「起きてしまったことは仕方がありません。ローヤルという会社があります。この会社を使っ

て再起を図ってください」私は驚きのあまり、お礼を述べようにも言葉にならず、ただただ涙を流すだけでした。

その日その足で、私は鹿児島へ向かいました。同郷の恩人である鎌田善政社長に倒産の報告と「ローヤル」という会社をどう経営すべきか相談するためです。その結果、「鍵山社長のこれまでの足跡を、後世に遺し伝えるための会

社」、すなわち「鍵山秀三郎研究所」的な意味合いの会社にするべきだ、との結論で一致したのです。

以来、PHP研究所の全面的な協力も得ながら、現在までに書籍19冊、カレンダー4冊、ビデオ・CD・DVD7本、翻訳本11冊を制作してきました。同研究所によると、販売累計は56万部を超えているそうです。すべては鍵山相談役から、あの信じられないご提案をいただいたからこそその作品数です。

鍵山相談役が講演のなかでよく引用していた言葉に「鹽(たらい)に一滴の水」があります。

「鹽に水一滴を垂らしても、見た目には何の変化もない。しかし、一滴分の水は確実に増える」

この教えを、最近しみじみと実感しているところです。

熊本掃除に学ぶ会に 参加して

熊本県

信永のぶなが

幸子さちこ



30年くらい前に鍵山哲学を学ぶ「不易流行の会」で、学校や公園などのトイレ掃除をしていました。その後、会は「熊本掃除に学ぶ会」に名称変更し、私が事務局を担当しました。当時の思い出を挙げます。

まず、ボランティア団体を支援する地元新聞社の企画に応募

合格し、掃除道具を一式揃えました。イエローハット様に現場をお借りでき、活動の拠点にできたことは、活動の大きな助けになりました。

桜満開のなか、熊本城の清掃に市長はじめ多くの市民が熱心にトイレ掃除をされ、感銘を受けました。

また、児童養護施設ナザレ園での、園児たちとのトイレ掃除では、反抗的だった子どもも、掃除と一緒にすると心が通じて温かい交流ができ、さらに園児たちの作文を読むと感極まりました。

京都・台湾・二条城などでの全国大会では、各地のツワモノの便器磨きの工夫ややり方を見て、目を白黒させました。東北の大会では、50余りの班の道具の片付けは

どうするのかと見てみると、指定場所に道具が吸い込まれるように片づけられる様は見事でした。

鍵山相談役の「日めぐり」にある「後始末は前準備」という意味がわかりませんでした。が、使い終わった道具を、きれいに洗い、干し、整頓しておく、いつでも直ぐ使える状態になり、清々しさを感ずるようになりました。

頑固な私にも少しずつ入って来て、オブラートが1枚ずつ剥がれるように素直になりました。感謝しかありません。

8年前突然相談役と同じ病に倒れ、役を退きましたが、処置が早くて重大な障害は残らず、近くの公園で「一人掃除」をさせていただいております。

(861 8043 熊本県熊本市東区戸島西1-17-21)

頬をかすめる「ウジ」

栃木県

あおき
敬信 たかのぶ



トイレ掃除に加え、毎月J R宇都宮駅前の掃除をしています。世話人は世話役に徹していて作業ができませんので、世話人だけ

20世紀の時代、水洗式でないトイレ

はよくありました。その時代(1998年)のお話です。

栃木掃除に学ぶ会は、小中学校の

で作業をする自修会をすることになりました。いつやるか、5月の駅前掃除の後にやろう！ ヨシ！ やろう、やろう…。

「自修会、君がイイネと言ったから、5月は多氣山(たげさん)不動尊」ということに。

宇都宮市北西部のその市営駐車場トイレは、「ポットトイレ」、男子は伝統のワンボックス。何の因果か私が担当になりました。

薄暗い室内は切れた電球に蜘蛛の巣がかかり、扉は開けてもいつの間にか閉まる半自動、床に散らばり湿気で厚みを増した週刊漫画に虫が這う、という状況です。何とか便器にたどり着き、掃除して何が困るといつて下から吹き上げる風です。

うららかな初夏の薫風は、汚

れた網戸に遮られた窓からではなく、臭突を逆流して吹いてきます。足下間近に見える盛り上がった光景をぬぐうように吹く風を顔面に受けながら、「これは何の学びだろう?」と思っていました。「ウジ」がいます。しみじみ見たのは初めてで、大きく角が生えた立派なヤツが便器を這っています。

かがみ込んで便器を磨きながら、噛みつかれないよう払って下へ落とします。そのときです。右の耳から頬にかけてシュツと何かが触って床に落ちました。ヤツでした。慌てて天井を見るとあと2匹、次は襟首に落ちようと狙っていました。「掃除は上から」と教えられた自修会の思い出です。

凡事徹底は生きる覚悟

京都府

山本^{やまもと}

保弘^{やすひろ}

1993年34歳のとき、母が亡くなりました。道をさまようと二年。兄の勧めで鍵山掃除道に出会いました。翌年3月。毎朝6時、会社にて一人、心磨きのトイレ掃除をするようになりました。それから5年後、青年塾にて鍵山秀三郎様より直接ご指導頂きました。「最初に左手でガシツと便器をつかんで下さい」

今までも素手で掃除をしてきました。しかし、最初に便器をしつかり握ることで、嫌でも覚悟ができます。「今から便器を磨く！」大げさな話ですが、この

行為こそが、生きる覚悟を決める全てに感じました。そしてここから始まるのが、そこまでするか！の掃除。

こびりついた汚れを何百回もこする。あの手この手の道具で汚れが落ちるまで試行錯誤を続ける。広くではなく、目の前の一点を集中して磨く。この教えは人生をどう生きるのかという生き方のスタンスそのものでした。

今まで広く浅く生きてきやしなかったか？こんなにも一つのことを深く掘り下げて生きてきたか？毎朝、便器を握るたびに生きる覚悟も思い出しました。一度きりの人生をどう生きるかを真剣に向き合って生きてきたか？それは、自然と人生を豊かに生きる達人への道しるべ

でありました。

鍵山様から、「体はいくら大きくしよう和努力しても3メートルや4メートルにはなれません。しかし心は、心が次第で天より高く空より広く、海より深くなることができます」と教えていただきました。ああ、そうか、何のために掃除をするのか？これが答えだ、と。

鍵山様から、ものの考え方、生活の立ち振る舞いもたくさん教えていただきました。亡き母が天国からご縁を繋いで下さったのだと手を合わせています。

鍵山様はじめ日本を美しくする会の皆様とのご縁を心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

落ち葉

神奈川県

丸山 まるやま
修 おさむ



近所に、ゆり、桜、櫟(けやき)の並木道が「コ」の字型に通っています。秋に落葉し、腐葉土として農家の方に一番喜ばれるのが櫟の葉です。

20年ほど前、この櫟通りの掃除を鍵山相談役とご一緒させてもらったことがあります。雨上が

りで、雨水も流れていました。道路の縁石側をグレーチングに向かつて掃いていると、相談役が動きを止め、「丸山さん」と。何かのご注意? ドキ!

相談役は、足元の長さ15cm位、太さ1cm未満の櫟の小枝を指さしていました。それは斜めになって櫟の葉を堰き止め、雨水が溜まっていました。「世の中にはこのような人(事)が多い、小枝がなければ水はスムーズに流れます」当時「荒み」という言葉も聞きなれず、意味が分かりませんでした。「小枝≡荒み」ということが、しばらく後に理解できました。

1995年12月9日、第1回神奈川県掃除に学ぶ会が有馬中学校で行なわれました。私は参加者のために、会場までの道案内をして

いました。まだ車も人も少ない時間帯です。目の前に車が止まり、人が降りて来て、「会場までの道順は?」と聞かれました。それも直立不動の姿勢です。そして「ありがとうございます」と最敬礼で頭を下げ、また運転して会場に向かわれました。その方は鍵山社長でしたが、その礼儀・所作は大変心に残りました。

私は、日本を美しくする会で本部世話人として事務局阿部豊さんのお手伝いの立場で、NPOの立ち上げ、認定NPOへの移行手続きなどで、大手町に何回か一緒にさせていただきました。

また、本部会計を2020年2月まで12年間お勤めし、私なりに会の運営に参画させていただいたと自負しております。

師鍵山先生と お掃除にお出逢い

大阪府 渡部^{わたなべ} ヒサ



相田みつを先生の書「くちではなあ」があります。鍵山秀三郎先生と相田先生が出逢うきっかけとなった言葉と知りました。この言葉の深さに瞬時に魅せられ、以来、ご縁をいただく方に相田先生の本をお贈りしました。

さてKさんの話です。1961年カー用品販売会社を始めたKさんは、毎朝アパート前の道路掃除や植栽の手入れをしています。そういうKさん夫妻を「観音さまが見て」いました。

地主の田中進さんは、東京の一等地を「この土地を買いなさい」と、常識では考えられないほど安くKさんの事業用に売ってくれたのです。Kさんは言います。「時間の6分の1くらいでしょうか、他の誰からのオフアームも断って、譲ってくださいなのです」

私は自然が好きで、山に行くとゴミを拾います。白神山地で、自然保護監視員に不審に思われましたが、ポリ袋の中のゴミを見せると、笑顔で持ち帰りくださいました(笑)

さまざまなご縁をいただきました。1997年、相田みつを美術館パトナー人会。2002年「佐藤しのぶ出逢いのハーモニー」、鍵山先生が出演され、話題はすべてお掃除でした。

2003年長居公園周辺の街頭掃除、初めてのトイレ掃除で最高の感動を受け、帰宅するや自宅トイレを掃除しました。

「便教会総会」に誘われ、2006年、姫路で初めて鍵山先生のお話を聞き、昼食で正座しカレーを食されるお姿などを拝見し、大感動しました。『求根塾』では、人としての生き方を学びました。

最高の師に出逢い、不思議でありがたいご縁に心より感謝しております。

(543-0028 大阪府大阪市天王寺区小橋町12-2-605)